

れんぎ
認定特定非営利活動法人 **日本雲南聯誼協会**
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261
Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658
f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa
ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
編集・発行人 初鹿野 恵蘭
印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社/デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第55号

会報

発行日 2015年(平成27年)11月15日

設立15周年!!さらなる夢を励みに、そして未来へ

特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会設立15周年記念式典・懇親会
2015年8月22日 於東京



初鹿野恵蘭理事長



中国大使館領事部王軍総領事



式典の様子



日本雲南聯誼協会は2000年6月に設立され、皆様のご支援、ご協力のおかげで本年、設立15周年を迎えることができました。皆様への感謝をこめて8月22日、京王プラザホテル(東京都新宿区)で記念式典と懇親会を行いました。

式典には、中国大使館領事部の王軍総領事と馮振三等秘書、雲南省人民政府僑務弁公室からは楊波副主任など5名を来賓としてお招きしたほか、日雲の関係者130名以上が出席しました。

清水雄輔協会顧問は開会の挨拶で、ノーベル

平和賞受賞者マラ・ユスフザイさんの「子どもたちにまず教育を」という言葉を引用し、「初鹿野理事長は15年前、同じ理念と哲学で活動を始め、協会は日本と雲南の友好関係を着実に築いてきた」と述べました。

初鹿野理事長は協会の歩みを振り返り、「設

立以来、大勢の皆様のお力をお借りして全力で事業に取り組んできました。協会の責任の重さを改めて感じています」と挨拶しました。式典には「25の小さな夢基金」で支援する生徒8名と「日本雲南大学生交流スタディツアー」に参加している学生16名、初鹿野恵蘭理事長の実姉丁美蘭さんも出席し、関係者への感謝状贈呈などが行われました。懇親会では寒水・能見ダンスグループと春蕾生のコラボレーションダンスやそれぞれの民族舞踊を披露。最後に参加者全員で「昂」を日本語と中国語で合唱し閉幕しました。

協力 寒水・能見ダンスグループ
ボランティア協力(順不同、敬称略) 森保次郎/木本一彰/佐々木英介/梅井美実香/土田淳志/上原正夫



いつもご協力・ご支援していただいている法人会員株式会社村上製本所 村上晃一取締役会長と奥様



春蕾クラス在校生8名が来日参加



『昂』を全員で大合唱



寒水・能見ダンスグループと春蕾生のコラボレーションダンス



協会では、ご支援・ご協力いただいた方々や法人会員、団体に感謝状を贈呈しています。15周年式典では個人7名と3団体に初鹿野恵蘭理事長から感謝状を手渡されました。

感謝状贈呈者(順不同、敬称略)

- 法人部門 ・株式会社キッツ・川西商事株式会社
・デンタルプロ株式会社・ハウス食品グループ本社株式会社
- 個人部門 ・鈴木良弘・渡部優美・木下千尋
・シナジープラス株式会社三宅裕之
- 特別感謝状 ・雲南省人民政府僑務辦公室・丁美蘭
・肖涵宇・周婧怡・文家豪

ご支援・ご協力に心より感謝申し上げます

感謝状受賞者・鈴木良弘さま

50の小学校プロジェクト
25校目へのご支援
ありがとうございました

静岡県在住の鈴木良弘さんに25校目の小学校建設を支援していただき、個人部門で感謝状を贈呈しました。小学校建設への思い、式典に参加しての感想を寄せてもらいました。



貴協会設立十五周年の記念式典にご招待して頂きありがとうございました。多くの方々のご支援もあり、式典は大成功でした。昆明市女子中学の少数民族女子高生が色鮮やかな民族衣装を身にまとい歌や踊りを披露してくれました。たどたどしい日本語でのあいさつも、これからの夢や希望をいだかせるものでとても好感が持てました。

中国との友好拡大は私の師の悲願でもあり、よく師は私たちに中国を「文化大恩の国」と教えてくれました。その恩ある国に恩返しをしたいと三十年程前に抱いた私の思いが小学校建設という形で実現することは何にもましてうれしいことです。今後、日中友好の交流が益々拡大していくことを願ってやみません。

最後に日中の掛け橋として尽力されている貴協会が益々発展されることを願い、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

25校目支援者 鈴木良弘

参加者代表・新田真弓さま



「25の小さな夢基金」サポーターの新田真弓さんはわざわざ長崎県から15周年記念式典に参加。手紙のやりとりを通じて生徒を励ましたり、昆明市女子中学に絵本を贈ったり、第2回大学生交流スタディツアーでは子どもたちの身体測定に必要な体脂肪計と小学校に寄贈する図書を寄付するなど協会活動に積極的に協力してくれています。

協会設立十五周年おめでとうございます。初鹿野理事長はじめ関係各位の皆様のご苦勞を思うと、頭が下がるばかりです。

私は長崎県に在住しており歴史的、地理的に中国は身近な国で、東京の方が遠く感じられます(笑)。今回の記念式典も「東京までの交通費を協会に寄付した方が喜ばれるのではないかな」と何度も迷いましたが、初鹿野理事長や協会の皆様、生徒さんと直接お会いして楽しい時間を過ごし、参加してよかったと心から思いました。

協会を通じて少数民族の女の子と出会い、支援者になってみると、一人の女の子の運命を彼女が望む方へ変えられると知りました。私はこれからできる限り協会の活動に協力しよう決意を新たにしました。これからも宜しくお願いいたします。

会員 新田真弓

「25の小さな夢基金」支援生徒8名来日 “初めてづくし”の日本体験



“初めての海”でおおはしゃぎ
神奈川県七里ヶ浜

東京スカイツリーの
高さにびっくり



「25の小さな夢基金」で支援する昆明市女子中学春蕾クラスの生徒8名が、協会設立15周年記念式典にあわせて来日しました。生徒たちの8泊9日に及ぶ来日が実現したのは、会員やボランティアの皆さんのご支援、ご協力によるものです。ありがと

うございました。

同基金は今年9月、10期生98名を新たに迎え、支援生徒は566名、卒業生は256名に達しました。卒業生の多くは大学進学を夢をかなえ、「日本と雲南の友好に役立ちたい」と日本語を専攻する学生もいます。協会は今後も日本・雲南の架け橋となる人材を育てるため、生徒たちを日本に招きました。

雲南省を出ること、飛行機に乗ること、海を見ることが、すべてが初めてだった生徒

1日目	8/16(日)	午後 成田国際空港到着、都内宿泊先へ
2日目	17(月)	午前 協会事務所訪問 オリエンテーション 午後 国会議事堂見学、新宿散策
3日目	18(火)	鎌倉へ 鶴岡八幡宮、高徳院など見学 “初めての海” 七里ヶ浜で水遊び 4名の生徒は会員宅で “初めてのホームステイ”
4日目	19(水)	午前 朝日新聞東京本社見学 午後 浜離宮見学、浅草周辺散策
5日目	20(木)	午前 テレビ東京見学 午後 渋谷、青山、表参道、原宿周辺散策
6日目	21(金)	午前 池袋防災館で “初めての防災訓練” 体験 午後 上野・アメ横周辺散策、協会で民族踊りの練習
7日目	22(土)	協会設立15周年記念式典及び懇親会参加
8日目	23(日)	終日、宿泊先で今回のレポート作成
9日目	24(月)	午前 宿泊先をチェックアウト後、成田国際空港へ 午後 経由地 広島県広島へ 深夜、無事に昆明市女子中学へ到着

たちにとって今回の来日はどのようなものだったのでしょうか。引率として来日した昆明市女子中学の尹松潔書記と生徒を代表して柏雪さん(3年生、イ族)と金卉さん(2年生、イ族)に感想を書いてもらいました。

初めての電車



ボランティア協力(順不同・敬称略) 平田 栄一、上原 正夫

春蕾生との日本で9日間 引率者を代表して

私と趙漪先生は協会の招待を受け、8名の春蕾生とともに来日し、設立15周年記念式典に参加しました。空港での出迎え、宿泊、食事などすべてが周到に準備され、初めて日本に来た不安と家を離れた寂しさを感じませんでした。協会の方々の真面目で責任感にあふれ、物事に尽くす精神は深く印象に残りました。

日本滞在中には、国会議事堂やテレビ局、スカイツリー、浅草などを訪れ、地下鉄の速さ、様々なおいしい料理を体験しました。子供たちは夢のような毎日を楽しみ過ごし、たくさんの“初めて”を実現しました。飛行機に乗ること、大海原を見ることが、高層タワーからの都市の夜景、プロのダンサーとの踊り・・・

浅草・雷門で
尹松潔書記(右)



テレビ局で
テレビの裏側を見学



今回は大変有意義な旅行でした。清潔で整った街並みを目の当たりにし、人々からは文化、礼儀正しさ、謙虚さなどを感じました。協会の皆さんの仕事に対する誇り、奉仕の精神、学生たちを愛する気持ちといったものは、私と子供たちの心に美しい種を播き、それは将来きっと花を咲かせ、実を結ぶことでしょう。

初鹿野理事長と協会の招待に感謝し、さらに多くの春蕾生が健やかに成長し、夢を実現できるよう私たちもがんばります。

(昆明市女子中学書記 尹松潔)



日本最後の夕食は法人会員
株式会社リンガーハットから
食事券を提供していただきま
したので、ごんかつ浜勝JR
お茶の水店に行き、揚げたて
サクサクのごんかつをいただき
ました。

すべてが初めてづくし 生徒を代表して



柏雪さん(右)と
彼女のサポーター！
原忠昭さん

今回、日本に来て、たくさんの“人生で初めて”を経験しました。国を出ること、飛行機も電車も船も、全て一生忘れられません。恵蘭おばさまが苦勞して協会を立ち上げ、愛情ある方たちとともに、私たちのような子どもたちを支援し、励ましてきてくれたことに感謝します。恵蘭おばさまの優しさ、勇敢さ、知恵は私たちのよいお手本です。

日本での数日間、協会の方々がずっと私たちの面倒を見てくれて、その温かさ、やさしさに感動しました。協会のおかげで私は夢を追うことができ、日本に来る機会も与えられ、人生を豊かにする忘れられない経験ができました。同時に、もっと勉強し、知識を身につけることで自分の人生を色鮮やかにできると感じました。今後も感謝の気持ちを忘れず、できるようになれば人を助け、有意義な仕事をしたいと思います。

恵蘭おばさまのもと、日本雲南聯誼協会がますます発展することをお祈りします。

柏雪(3年 イ族)



朝日新聞本社見学
記念の新聞を作ってもらいました



金卉さん(左)と
会員・森正郎さん

今回、初めて日本に行く前、それほど憧れや興奮もなく、暮らしもそんなに変わらないのだと思っていましたが、9日間の体験はわたしの考えを大きく変えました。

日本についたその時から日本との違いを感じました。地位や貧富に関わらず、どこへ行っても人々は礼儀正しく、私たちもだんだん感染していききました。お店やレストランでは王様のようにもてなされて驚き、話すたびにお辞儀をするので、お辞儀は普段から欠かせない仕草のようでした。電車で騒いでいる人やタバコを吸っている人はおらず、お年寄りや身体の不自由な人には自発的に席を譲ります。

老人も若者もみんな元気で健康です。街は清潔で空気も新鮮です。日本人は心の清潔をとて重んじ、その気持ちが生活の中にも表れています。

ほんの9日間の滞在で日本の全ての風景や生活を感じたわけではありませんが、その影響は大きく、今後の人生のつぎあいや生活に生かそうと思います。旅行は人生に対する一種の投資で、風景を見るだけでなく、人や文化を感じ、自分の価値観を修正し、生活を彩ることだと思いました。

金卉(2年 イ族)

「25の小さな夢基金」第3回 日雲高校生上海国際交流プログラム 雲南少数民族女子高生と 上海日本人学校高校生が国際交流



昆明市女子中学春蕾クラスの少数民族女子高生と上海日本人学校高等部が2013年に始めた「日雲高校生国際交流プログラム」。今年は生徒代表10名と引率教師2名、雲南支部スタッフ1名が学年末試験翌日の7月14日に空路、上海へ向かい、東京から初鹿野恵蘭理事長も参加しました。交流会には上海日本人学校高等部全生徒約150名が参加しました。

上海日本人学校高等部初代校長を務めた安保尚子協会顧問と日本人生徒代表 賀来千絵さんの感想をご紹介します。

日本人学校高等部は太鼓、合気道、日本舞踊など総出で春蕾クラスの生徒を歓迎しました。



◀学生たちはすぐに打ち解けました

春蕾クラスからも力のあるスピーチ、ダンス、歌、民族舞踊等の披露がありました。午前中の最後は世界各国の風景写真を見て、グループで相談し国名を当てるという難しいクイズでした。不正解だと新聞紙の上に立った回答者のスペースが段々狭くなる罰ゲーム付きとあって子どもたちは大盛り上がり。日本語・中国語・英語が入り混じるにぎやかな時間となりました。その後も昼食、授業参加、軽音部ライブと、朝から夕方まで一緒に過ごす時間を満喫できたことと思います。この催しも3回目となり、毎回、担当生徒によって趣向が変わるのも楽しみの一つです。日雲両生徒たちの若い心にとって大きな糧となっていると信じています。

安保尚子 協会顧問



▲初めはちょっと緊張



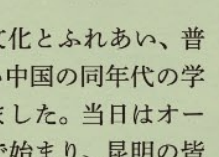
▲日本の高校の授業を初体験

会場 上海日本人学校高等部
主催 日本雲南聯誼協会
協賛 上海森茂診療所
上海日本人学校 昆明市女子中学

交流会に携わってみて...

今年の交流会は例年以上に学校がひとつになり盛り上がったと思います。今回、私は国際交流委員としてこの交流会に携わり、雲南の文化とふれあい、普段はあまり関わることのない中国の同年代の学生と交流する機会に恵まれました。当日はオープニングセレモニーの太鼓で始まり、昆明の皆さんを暖かく迎えました。アイスブレイキングの討論会などでは少々照れがありながらも、言葉の壁を感じさせなくなるほど、みんな積極的に話し合いを進めました。また、私には少数民族の踊りがとても印象的でした。衣装がとても綺麗で、何より踊りが素直で民族独特の味を感じました。今回の交流会を通じて、交流会を開催する意義やコミュニケーションをとることの大切さについて学びました。機会があったらまた交流会をしたいと思います。

▲教室で皆いっしょにランチタイム



(賀来千絵 2年生)

国連NGO世界平和女性連合 国際協力シンポジウム ～国際平和デーに寄せて～ 世界平和とNGOの役割 ―他者の為に生きる―



左から 村上裕子さん アミア・ミラさん
初鹿野恵蘭理事長

初鹿野恵蘭理事長 パネリストとして参加

初鹿野恵蘭理事長が9月10日、東京・千代田区のいきいきプラザ一番町で開催された世界平和女性連合(WFWP)主催の国際協力シンポジウムにパネリストとして参加。同連合東京第一連合会副議長で、長年の協会会員でもある伊藤明子さんに一言いただきました。

WFWP主催の国際協力シンポジウムに初鹿野理事長にパネリストとして参加して頂きました。パネリストは他に国境なき医師団より村上裕子先生、日本生まれのアメリカ人で陸前高田市特別顧問のアミア・ミラ女史です。村上先生は戦地イエメンで一人でも多くの命を救うミッションについて、アミア・ミラ女史は東日本大震災直後から今日まで、被災地での日常を取り戻すボランティア活動について発表。初鹿野理事長は、協会の小学校建設、少数民族の実情、そして「25の小さな夢基金」について発表しました。また、他者のために生きる源泉にも話が及び、初鹿野理事長の家庭や出会いの中で他者のために生きる心情と情熱が育まれたことを知りました。会場からは感動と共感の拍手がいつまでも続き、名残惜しい閉会となりましたが、原点に立ち返りながら学び合い、参加した誰もが心に素敵な宝物を得た秋の一日でした。初鹿野理事長をはじめ協会の皆様に感謝申し上げます。

世界平和女性連合東京第一連合会副議長
伊藤明子(協会会員)

立命館アジア太平洋大学 笑-xiao- 雲南渡航 2015 協会支援 19校目 老木壩小学校訪問 日本の「縁日」開催



①-笑-リーダーの
長谷川友愛さん(右)

私たちは立命館アジア太平洋大学の教育系ボランティアサークルの笑-xiao-です。大学の夏季休暇を利用して日本雲南連誼協会様のご協力のもと老木壩小学校を訪問しました。現地での活動は日本の文化を体験してもらおうと、各教室を遊びのコーナーとして縁日を開きました。日本の文化を通じて笑顔になってもらえるよう、割り箸で作った射的や魚釣り、折り紙などを手作りで準備をしました。小学校に到着直後、初対面で少し恥ずかしがっていた小学生たちは準備をしていたアイスブレイキングで私たち笑-xiao-とすぐに仲良くなってくれました。翌日の縁日企画で楽しそうに教室をまわる小学生の姿を見て本当に嬉しい気持ちになりました。彼らの純真無垢な瞳は見たことのない輝きを放つ宝石のようでした。2日間の活動で多くの幸せや学びを私たち笑-xiao-と老木壩小学校の全校生徒で作ることができました。今回の経験を活かして今後もサークル活動をしていきたいです。

笑-xiao-リーダー 長谷川友愛

大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学のボランティアサークル笑-xiao-は2009年から、協会が「50の小学校プロジェクト」で支援した小学校で交流活動を行っています。これまでも協会とともに運動会や児童劇巡回公演など、子どもたちに「特別な時間」をプレゼントしてきました。今年は夏休みを利用して9月初めに日本人学生6名、中国人留学生5名が1泊2日で老木壩小学校を訪問、日本の「縁日」を開きました。

②子どもたちはいつでも
元気いっぱい



③全校生徒58名の老木壩小学校

第7回 インターンシッププログラム in 雲南支部

“仕事”を初体験 自分の実力を試した2週間

「アジア未来への人材育成プロジェクト」の一環として雲南支部インターンシッププログラムは2012年に始まりました。今回は雲南師範大学日本語専攻の学生14名が7月、2班に分かれ2週間ずつ雲南支部で職場体験しました。仕事内容は、「25の小さな夢基金」の生徒から支援者への手紙や協会ホームページの翻訳などです。日本雲南大学生交流スタディツアーにも2度参加するなど、協会活動に積極的な下子豪さんの感想を紹介します。



④下子豪さん

大学3年生が終わった夏休みに、早く職場に慣れ、自分の実力を試すため、私たちは協会で2週間のインターンシップを体験しました。

私の仕事は協会のホームページを翻訳することでした。毎朝、みんなで事務所の掃除をしてから、仕事に取りかかりました。わからない言葉を電子辞書やインターネットで調べたり、他のインターン生に聞いたりして、やっと翻訳ができました。2週間はあっという間でしたが、本当に色々勉強になりました。今回のインターンシップのおかげで、私は自分の日本語能力がまだまだ足りないことを十分認識し、また協力して仕事をする大切さを学びました。協会の皆さんにお世話になりました。本当にありがとうございました。

雲南師範大学外国語学院日語科3年
下子豪



連載 こんにちはCSR ―協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ―

第11回●株式会社ピー・アンド・アイ ―人とのつながり大切に―

【会社概要】印刷を情報伝達手段の一つと捉え、印刷にこだわらず最も効率的な手法で情報を形にすることを旨として1991年(平成11年)に創業された印刷・デザイン・WEB制作の会社です。P&IはPrint(印刷・出力)、Intelligence(知能・知恵・情報)の頭文字で、印刷業は情報処理業であるという理念をあらわしています。
本社所在地
〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町3437
TEL: 045-938-7041(代表) FAX: 045-938-7045
http://www.p-a-i.co.jp

「ただ印刷するだけでなく、顧客のイメージをあらゆる手段で形に変えるのが我々の仕事」というユニークな印刷会社が「ピー・アンド・アイ」です。ネットに情報が氾濫し「情報はただ」の時代に、同社は顧客一人一人にどう満足してもらうかを考えながら情報処理に取り組んでいます。40年来、信頼関係で仕事をしてきたという石井秀治社長のモットーは「人と人とのつながりを大切に」。人材教育にも力を入れる石井社長が、ふとした

石井秀治代表取締役(左)と
阿部康営業部長(右)



きっかけで協会の活動を知り、「一歩踏み出す形で協力できれば」と法人会員に。東日本大地震の際は余った印刷用紙を折り紙として被災地に提供。協会へは雲南の子供たちの写真を印刷したオリジナルの素敵なノートを作ってくれました。「人助けで利益は求めない」と商品化せず、純粋な社会貢献としてご寄付いただいています。



オリジナルノート

※CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任): 利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと



グローバルフェスタ Japan 2015 11年連続出展

日本最大級の国際協力イベント・グローバルフェスタ Japan 2015 が10月3日、4日の2日間お台場で開かれ、今年も協会から29名が参加しました!

今年のテーマは「Share the Happiness! ~お台場から広げよう! 幸せいっぱいの国際協力の輪~」。同フェスタは去年まで日比谷公園(東京都千代田区)で開かれていましたが、今年から若者や外国人観光客に人気のお台場(東京都港区)に会場を移動。国際協力のNPO、NGOのほか国際機関、企業など274団体が出展し、2日間で101,300人が来場しました。

ボランティアには、2007年11月に開校した協会支援16校目・怒江リズ族自治州の小学



大学生など若い世代が
協会活動に興味をも
ってくれました



プーアル茶の
試飲を配ったり
会報を配ったり大忙し

校開校式ツアーに参加した親子や、過去2回の大学生交流スタディツアーに参加し、現在、東京の大学に短期留学している雲南大学生も来てくれました。

今年のグローバルフェスタでもたくさんのご寄付が集まりました。ボランティアの皆さん、暑中、ありがとうございました!

ボランティア協力(順不同、敬称略) 森保次郎、張昱、季瑞穎、下岡幸幸、下岡映美子、ファデルディヤ、久継智弘、岩沙圭、エリサ・ラチ、佐々木英介、初鹿野仁、金澤孝、川口邦夫、木下千尋、山本晶、宋愛平、劉寛範、小野村柚佳、黄旭梅、胡慧思、松田雄馬、土田淳志、上原正夫



協会の活動は大勢のボランティアに支えられています

イベント
報告第11回雲南省少数民族貧困児童
教育支援チャリティーゴルフコンペ

三連休初日の10月10日、恒例のチャリティーゴルフコンペが開かれました。会場はおなじみのどこからでも富士山が望める大月カントリークラブで、協会会員、法人会員など計 21 組、82 名が参加しました。技術評論社社長の片岡巖協会顧問の挨拶のあと、全員で記念撮影をして、初鹿野恵蘭理事長の始球式でラウンドスタート。終了後は、クラブハウスレストランで成績発表を行い、皆さんからご提供いただいた景品を参加者全員にお配りしました。

皆さんからのご寄付で、今年も新たに3名の夢基金生を支援し、「高校卒業」という彼女たちの夢をかなえることができます。皆さんの温かいご寄付に心より感謝申し上げます。

ご寄付・景品ご提供(順不同、敬称略) 株式会社技術評論社、大月カントリークラブ、メディネットインターナショナル株式会社、港北出版印刷株式会社、図書印刷株式会社、綿半ホールディングス株式会社、京王プラザホテル、サッポロホールディングス株式会社、JR総連、日本産業投資技術促進株式会社、株式会社加藤文明社印刷、参加者全員ボランティア協力(順不同、敬称略) 劉萃、張昱、季瑞穎、陳麒后



①雲南美女と記念撮影はい、チーズ
②初鹿野恵蘭理事長の始球式



③チャリティーゴルフコンペ名物地獄の18番チャリティーショートホールワンオンできなかった方にはご寄付1,000円をいただきました



早くも来年のチャリティーゴルフコンペ開催日決定!

2016年10月15日(土)

会場は来年も大月カントリークラブです。お友達、ご家族お誘いあわせのうえ、是非ご参加ください!

④技術評論社社長片岡巖協会顧問の乾杯の発声で懇親会スタート



⑤栄養ドリンクを飲んで最終ホール

「25の小さな夢基金」



李智慧さん イ族 楚雄出身 楊帆さん ミャオ族 麗江出身 張春蕾さん 漢族 昭通出身

今回のコンペから新たに支援が決定した3名の女子高生

イベント
報告初鹿野恵蘭理事長 雲南出張
2015年9月17日～24日

「50の小学校プロジェクト」、「25の小さな夢基金」、魯甸地震支援金について打ち合わせるため、初鹿野恵蘭理事長が今年3回目の雲南出張に行きました。支援25校目・中日友好勸業愛小学(タイ族チンポー族自治州盈江県)建設と魯甸地震支援金については雲南省僑務弁公室の袁光興副主任と面談し、「25の小さな夢基金」に関して昆明市女子中学で史雲波校長、8月に来日した生徒8名、引率の尹松潔書記らと懇談。日本の感想などを聞いたほか、生徒たち手作りの壁新聞を見ました。また9月に入学したばかりの春蕾新入生98名にお祝いの言葉を贈り、協会と「25の小さな夢基金」の説明をしました。春蕾卒業生3人も駆けつけ勉強や生活のアドバイスをしました。



①初鹿野恵蘭理事長(左)と雲南省僑務弁公室袁光興副主任

②昨年のチャリティーゴルフコンペで支援が決定した3名の春蕾生と初鹿野恵蘭理事長(右から2人目)



③春蕾新入生の皆さん

中華人民共和國
建国66周年祝賀
レセプション

初鹿野恵蘭理事長 出席

中華人民共和國成立66周年を祝う同国駐日大使館主催のレセプションが9月29日、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)で盛大に開催されました。日中友好に貢献した政財界、教育など各界の代表、華人華僑など2000名以上が参加し、程永華大使は「中日両国が世界と時代の流れに順応し、平和的発展を貫き、両国人民の代々の友好のために共に積極的に努力することを希望します」とあいさつしました。初鹿野恵蘭理事長もお招きいただき、皆さんと交流を深めました。



①中国大使館領事部王軍総領事(左)と初鹿野恵蘭理事長

江戸川総合人生大学
第12期生入学式

初鹿野恵蘭理事長出席

東京都江戸川区が行っている社会人講座「江戸川総合人生大学」で入学式が行われ、国際コミュニティ学科で4年間特別講義をしている初鹿野恵蘭理事長も出席しました。同区の篠崎文化プラザで行われた式には、新入生93人と江戸川区長や講師、在校生など約130人が出席しました。新入生代表が「互いに学び合い、高め合い、励まし合って、住みよい町づくりをめざして努力していきたい」と決意を述べました。



北野大学長



①国際コミュニティ学科の講師(右 初鹿野恵蘭理事長)

さいたま市 国際ふれあいフェア2015
大宮支部参加

さいたま市の姉妹・友好都市や世界の文化を見て、食べて、踊って楽しめる「さいたま市 国際ふれあいフェア2015」が10月11日に開かれました。さいたま観光国際協会主催で、今年も協会大宮支部を含む12か国20団体が参加しました。午前中は小雨でしたが、午後には上がり、JR浦和駅前という好条件もあって6,000名以上が来場しました。協会ブースはメインステージ前の「一等地」に割り当てられたため、民族衣装の試着に待ち時間ができるほど多くの人が訪れ、ボランティアの皆さんは大忙し。あるボランティアさんからは「大変だったけど、子どもたちの笑顔で疲れが吹き飛んだ」と感想がありました。

ボランティア協力(順不同、敬称略): 川口邦夫、高橋福子、大泉國雄、佐藤正典、高橋金子沙樹、鳥羽清弘、滝澤崇、寺内明子

第23回あげおワールドフェア2015
大宮支部参加

爽やかな秋空が広がる体育の日の10月12日、埼玉県上尾市の文化センターで「あげおワールドフェア2015」が開かれました。上尾市は50か国約2500人の外国人が住む国際都市で、同市で活動する47の国際交流団体が、活動紹介や特産品の販売、民族ダンスの披露などを行いました。各国の料理が楽しめる「ワールドフード」コーナーは毎年、長蛇の列ができる人気です。センター2階の大宮支部のブースでは雲南名物の「パイナップルご飯」や八宝粥、スパイシーな煮込み料理などを販売。ボランティアの王珊さんが雲南民族楽器の演奏も披露し、朝10時から午後4時まで訪れる人が絶えませんでした。

ボランティア協力(順不同、敬称略): 川口邦夫、青柳茂樹、大泉國雄、佐藤正典、奈良脇光夫、丸田智代、大野純子、小俣アキ、金子沙樹、岡崎るみ、鳥羽清弘、寺内明子



お知らせ

認定NPO法人、資格を更新

日本雲南聯誼協会が10月26日付で「認定NPO法人」資格を更新したことをご報告します。2010年7月に国税庁から下りた「認定NPO法人」資格が5年の期限を迎え、新たな所轄官庁である東京都に申請していました。協会の活動や組織運営が適正で公益性が高いと認められたため、協会への寄附金、支援金、賛助会費等は、引き続き税法上の優遇措置を受けることができます。皆さんからの善意のご寄附は、そのまま雲南の子どもたちへの教育支援事業に使われます。今後も皆様のご支援をお願い致します。

認定番号: 27生都地第1136号

認定期間: 2015年(平成27年)10月26日～2020年(平成32年)10月25日

25の小さな夢基金記念誌「未来をつくる彼女たちに」刊行!

協会設立15周年にあたり、「25の小さな夢基金」の記念誌『未来をつくる彼女たちに』を刊行しました。同じような境遇の出身で「春蕾」クラスを通して出会い、卒業後に離れ離れになるにも関わらず、深い絆で結ばれた春蕾生たち。そんな彼女たちを繋ぎとめるもの、そして春蕾生として歩んだ記録を残せるものをつくりたいという思いから、この本が生まれました。「25の小さな夢基金」が誕生した背景、9年間の歩み、学校生活の様子など、盛りだくさんの内容になっていますので、ぜひ一度お手にとってみてください。(東京本部にて取り扱っております。ご興味ある方はお問い合わせください。)

イベント
情報

第36回八王子いちようまつり

日時: 11月21日(土)、22日(日)
協会出展場所: 並木町郵便局横
(東京都八王子市)

2015年度 第3回理事会及び
役員・顧問会

日時: 11月27日(金)
理事会 16:00～
役員・顧問会 17:00～
場所: 株式会社技術評論社1階 会議室
(東京都新宿区)

江戸川総合人生大学特別講義
テーマ「日本に住む中国の人々の活動について」

講師: 初鹿野恵蘭理事長
日時: 12月16日(水) 10:00～12:00
場所: 篠崎文化プラザ講義室
(東京都江戸川区篠崎7-20-19)

2015 チャリティー忘年会
日本と雲南少数民族友好の夕べ

日時: 12月19日(土)、22日(日)
場所: ビヤステーション恵比寿
(東京都渋谷区恵比寿ガーデンプレイス内)

ワン・ワールドフェスティバル(予定)

日時: 2016年2月6日(土)、7日(日)
場所: カンテレ扇町スクエア・
北区民センター・扇町公園
(大阪府大阪市)

2015年度 第4回理事会及び
役員・顧問会

日時: 2016年2月19日(金)
理事会 16:00～
役員・顧問会 17:00～
場所: 株式会社技術評論社1階 会議室
(東京都新宿区)

2015
チャリティー
忘年会

日本と雲南少数民族友好の夕べ

協会設立15周年を迎えた2015年も残りわずかとなりました。毎年100名以上が参加するチャリティー忘年会を今年も開きます。雲南少数民族の踊りをみんなで踊って、親睦を深めましょう。会員以外でも参加できますので、雲南や少数民族に興味のある方はお気軽においでください!皆さんのご参加を心よりお待ちしております!

日時: 2015年12月19日(土)
17:00～19:00

場所: ビヤステーション恵比寿
(東京都渋谷区恵比寿 恵比寿ガーデンプレイス内 JR恵比寿駅東口徒歩5分)

会費: 一般6,500円

※会費は当日受付にて頂戴いたします。会費のうち1,000円を協会教育支援活動へのご寄付とさせていただきます。

お問い合わせ・お申込み:

日本雲南聯誼協会東京本部事務局

TEL.03-5206-5260 FAX.03-5206-5261

☒ yunnan@jyfa.org

編集後記

協会の中国語講座がもうすぐ半年になります。異国の文化を理解する第一歩は、やはりその国の言語を学ぶこと。中国のレストランやお店で、少しでも自力でコミュニケーションできれば楽しさは倍増しますよね。ただ中国語は基礎の発音が最初にして最大の難関です。発音できなければ聞き取れませんし、聞き取れないと会話が成り立ちません。どうやって発音の壁をクリアするか、受講生のみなさんとやりとりしながら手探りを続けています。

(編集長・木本一彰)